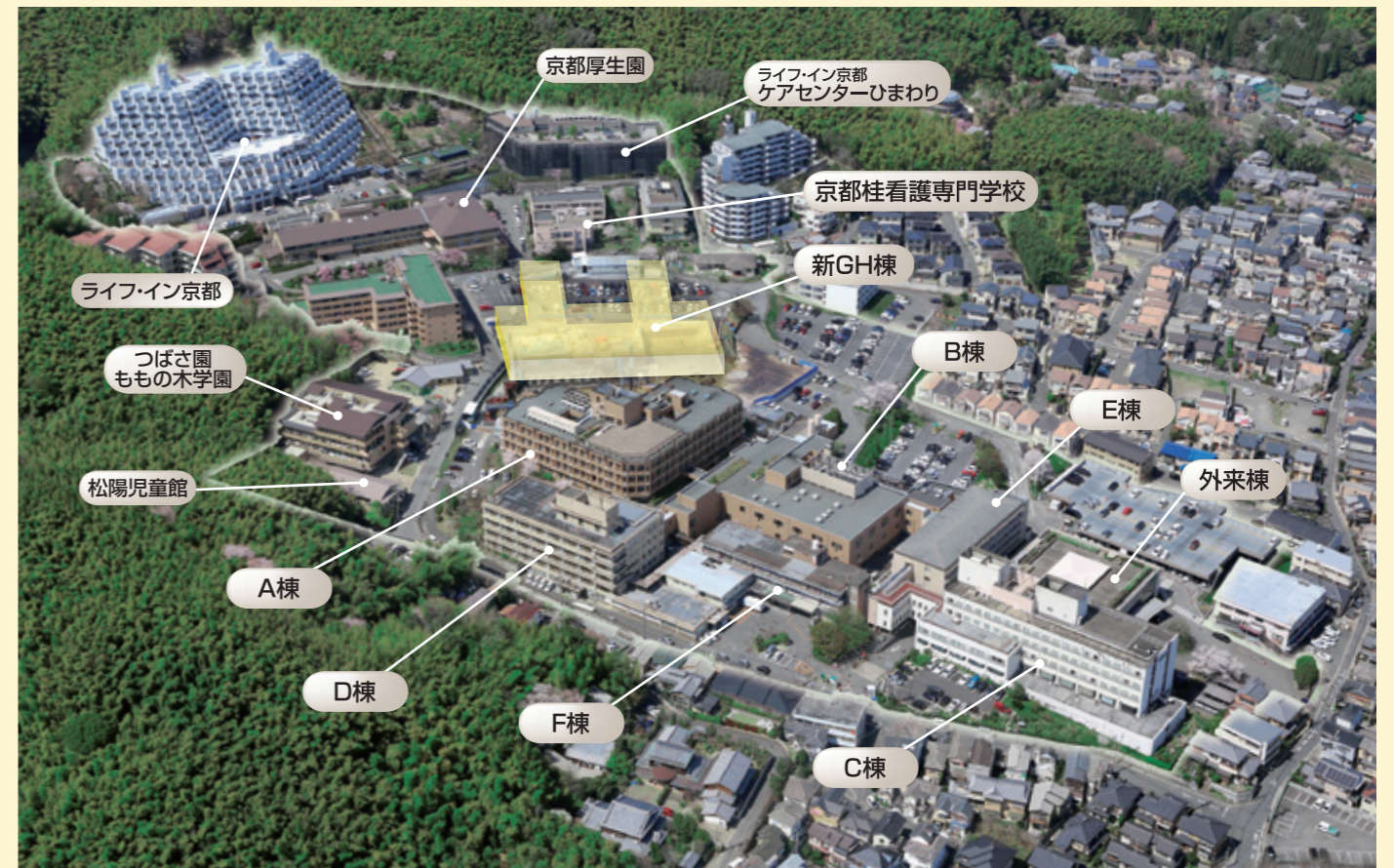


基本理念

私たちは、患者さんの人権を尊重し、地域に必要な基幹的・中心的な医療を担当すると共に、さらに高次の医療に対応できるよう努力します。

2020 New Year Vol.060

編集：広報委員会・広報課
 印刷：有限会社 アクト
 〒615-8256 京都市西京区山田平尾町17
 TEL075-391-5811(代)



東寺 (撮影 堀居 恭子)



Index

2	ホスピタルインフォメーション 2020年を迎えて
3	専門医がお答えします 第50回 当院に赴任して17年
4	かつらそらまめ教室③
5	京都桂病院は「がんゲノム医療連携病院」です 標準治療不応の切除不能・再発がん、希少がん、 原発不明がんに対する個別化医療が始まりました
6	ナースの広場 慢性呼吸器疾患看護認定看護師の役割
7	連携医ネットワーク
7	当院の医師・職員紹介

許可病床数

●557床 (一般545床：結核12床)

診療科目

- 一般内科 ●血液内科 ●糖尿病・内分泌内科
- 腎臓内科 ●膠原病・リウマチ科 ●化学療法内科
- 心臓血管センター (心臓血管内科・心臓血管外科)
- 消化器センター (消化器内科・外科) ●乳腺科
- 呼吸器センター (呼吸器内科・呼吸器外科)
- 脳卒中センター (脳神経内科・脳神経外科)
- 整形外科 ●形成外科 ●泌尿器科 ●産婦人科 ●眼科
- 耳鼻咽喉科 ●皮膚科 ●小児科 ●緩和ケア科
- 精神科 ●リハビリテーション科 ●腫瘍内科
- ペインクリニック科 ●放射線科 ●麻酔科 ●救急科
- 血液浄化センター ●健康管理センター
- 京都桂臨床医学研究所(臨床試験センター) ●保育所

併設施設

- 京都桂看護専門学校 (全日制3年課程)
- 訪問看護ステーション「桂」

関連施設

- | | | |
|-----------|--------------|----------|
| ●西陣病院 | ●にしがも透析クリニック | ●にしがも舟山庵 |
| ●京都厚生園 | ●京都桂川園 | ●昭和保育園 |
| ●北野保育園 | ●二条保育園 | ●松陽児童館 |
| ●つばさ園 | ●ももの木学園 | |
| ●ライフ・イン京都 | | |



交通のご案内

- ▶市バス
73系統(京都駅～洛西バスターミナル)
29系統(四条烏丸～洛西バスターミナル)
69系統(二条駅西口～阪急桂駅東口)
それぞれ「千代原口」下車、徒歩約10分
- ▶京阪京都交通バス
21、27系統(京都駅～桂坂中央)
「千代原口」下車、徒歩約10分
- ▶阪急電鉄
京都線「桂駅」下車
(西口)西へ約1.7km
- ▶病院専用送迎バス(約15分)
「阪急桂駅」及び「JR桂川駅」からは送迎バスを無料でご利用いただけます。
- ▶JR桂川駅 送迎バスのりば
(阪急桂駅西口の送迎バスのりばは、上記地図を参照してください。)

2020年を迎えて



院長 若園 吉裕

あけましておめでとうございませう。元号が平成から令和に変わり初めての新年を迎えました。気持ちも新たに、様々なことがらにチャレンジしてゆきたいと思っております。



昨年は地球温暖化の影響でしょうか、台風や大雨などの自然災害が大規模化しそれに伴う洪水や浸水、土砂災害、停電など、各地に大きな被害を及ぼしました。被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。本院においても災害対策、BCP（事業継続計画）を強化してゆきたいと考えています。

さて今年1月末には念願の新棟GH棟の建築が完了します。2月にはC棟、D棟からGH棟に病床を移動します。GH棟はA棟の北西に位置し、大きな床面積を持ち

A棟とほぼ同じ療養環境を確保しています。1階部分はリハビリ、2階部分は薬局や売店などが入り、3階から6階までは病棟となりA棟と繋がります。G3病棟には救急・重傷者に対応できる病室、透析の出来る病室を備え、腎臓内科、救急科、泌尿器科、循環器内科などが入り、H3病棟はゆったりお産のできる眺望の良い病室、小児の療養環境に配慮した病室などを配し、産婦人科、小児科、血液内科、乳腺科、眼科などが入りA3病棟と繋がります。G4病棟は呼吸器内科

を中心とする病棟、H4病棟は認知症などに配慮した設計で内科各科に対応しておりA4病棟と繋がります。G5病棟は消化器内科、腫瘍内科、外科、などの各科に対応しており、H5病棟は内視鏡処置の出来る処置室などを備えた消化器内科を中心とする病棟となり、A5病棟と繋がります。G6病棟は血液内科を中心とした病棟で無菌室を9室備え、H6病棟は緩和病棟となり比較

山や東山を眺望でき市内を一望できる個室やバルコニーを配し、家族控室もありA棟6階と繋がります。その後1年間かけて種々の整備を行い、現在のF棟を建て替えERや救急関連のHCU、ICU、SCUなどを整備し、内視鏡分野や放射線装置も集約することを計画しており、救急分野でもさらに地域に貢献したいと考えています。本年もどうぞよろしくお願いたします。

ホスピタルインフォメーション

新GH棟の機能

病棟機能 3階から6階は全て病棟となります。病室の大きさ・構造はA棟と同クラスになり既存のC棟D棟と比べてアメニティーは大幅に改善されます。食堂・談話室も備えていますので、ご家族でゆったりお過ごしいただくことが出来ます。新GH棟の各階が、A棟の食堂・談話室等と通路で連結しますので病棟間のアクセスが大変スムーズになります。今後、入院病棟はA棟B棟、GH棟に集約されることとなります。

6F 血液内科と緩和ケアを主とする病棟となります。

血液内科の無菌室は計9室となります。2020年4月からは緩和ケア病棟を設け、緩和ケアが必要な患者さんに眺望の良い個室で対応してゆく予定にしています。

5F 消化器内科などを主とする病棟となります。

5階では緊急内視鏡も出来る処置室を備えています。

4F 内科各科と呼吸器内科を主とする病棟となります。

4階では認知症ケアに対しても重点的に取り組みを行う予定です。

3F 内科各科と産婦人科・小児科を主とする病棟となります。

3階の内科には重症者対応の病室や透析のできる病床も配します。産科は専用フロアとなり家族談話室を備えている他、各部屋は大きく快適なものになり比叡山も一望ができます。最新の設備のもと落ち着いた気分で、ご家族で安全な出産をしていただくことができます。



専門医がお答えします
第50回

当院に赴任して17年



整形外科 部長
(同人工関節研究センター長)
藤田 裕

四十になった翌々日に整形外科部長として当院に赴任し、まもなく17年となります。正に光陰矢の如し、であつという間に駆け抜けた、というのが実感です。ここまで長く仕事が続けて来られたのは、院内外のすべての関係者のお蔭と感謝しています。

赴任当初から一貫している基本方針は、『手術に特化』することにあります。主に関節疾患、脊椎疾患、骨折など『手術でしか治せない』患者さんを対象としています。そのため、部位別の専門医による専門外来を立ち上げました。お蔭様でこれまでに

1,600例の人工関節を含む2,400例の関節手術と1,200例を超える脊椎手術を含む総計8,000例以上の手術をそれぞれの専門医により行うことが出来ました。現在、脊椎は富永副部長、スポーツ、肩、膝は原田副部長が専門的に治療に当たっています。私は股関節、膝関節の主に人工関節を専門に行ってきまし

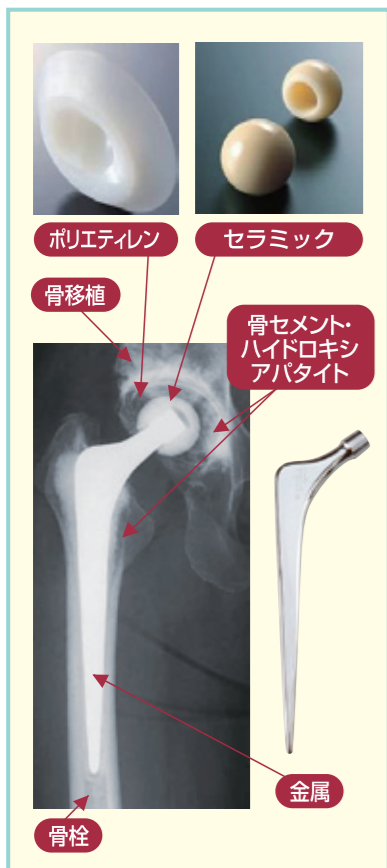
た。手術方法は一貫して骨セメントとハイドロキシアパタイトを併用した手術法を行っており、術直後の大腿部痛がセメントを使わない施設と比べて格段に少なく患者さんからも好評です。また、再手術など他の多くの病院ではこなせない難症例も積極的に引き受けています。

昨年9月に当院赴任以来の人工股関節置換術の件数が**1,000例**に到達しました。振り返って分析したいと思います。患者さんの居住地ですが、多い順に西京区、長岡京市、向日市、亀岡市、京都府北部、右京区で、全体の80%でした。その他、大阪府、滋



集合写真(2019年9月) 前列左から、原田副部長、藤田部長、富永副部長、後列左から奥谷医員、片岡医員、室谷専攻医。背景にF棟屋上の当院の古びたマーク(左)、手術室が入るB棟(右下)、新GH棟建設のためのクレーン(右上)を望む

1,600例の人工関節を含む2,400例の関節手術と1,200例を超える脊椎手術を含む総計8,000例以上の手術をそれぞれの専門医により行うことが出来ました。現在、脊椎は富永副部長、スポーツ、肩、膝は原田副部長が専門的に治療に当たっています。私は股関節、膝関節の主に人工関節を専門に行ってきまし





京都桂病院は「がんゲノム医療連携病院」です。

がんゲノム医療とは、がんの原因となる多くの遺伝子の異常を調べて、効果の見込める薬や副作用の少ない薬を選択するなど、発生臓器別ではなく個々のがんの特徴にあった最適な治療法を探る次世代のがん医療です。当院は、がんゲノム医療中核拠点病院(京都大学医学部附属病院と連携して、がん個別化医療を行う)がんゲノム医療連携病院に2018年3月に認定され、9月より先進医療の枠組みで遺伝子パネル検査を開始いたしました。今回2019年12月より保険診療の枠組みで、腫瘍の組織から複数のがん関連遺伝子を調べる「遺伝子パネル検査」が可能となり、費用は約17万円

(3)割負担の場合)となっており、現時点では標準治療に不応となつた方や、標準治療のない希少がん、原発不明がんの患者さん(血液がんを除く)が対象となり、判明したがん遺伝子情報は京大病院と他の連携病院と協力して治療法を検討、提供を行います。ただし我が国のがんゲノム医療はまだ開発の途上であり、遺伝子検査を行っても治療薬が見つかる患者さんは2〜3割程度にとどまっています。たとえ治療薬が見つかったとしても適応外や未承認の治療薬であることが多く、その場合は自費診療になつてしまうため、1カ月の療養費が数十万円に及ぶことも予想されます。また、治験や先進医療な

どで治療が受けられる場合もごく一部に限られ、それらの治療を行っている施設(大学病院やがんセンターなどに紹介して治療を受けていただく)になります。この点も、十分ご理解いただく必要があります。また腫瘍組織が検査に使用できない、もしくは新たに採取できない患者さん向けに、血液中の循環腫瘍DNAからがん遺伝子の検査を行うリキッドバイオプシー検査も開始しております。こちらは採血で血液20mlを採取し、複数のがん遺伝子を検査することができ、ステーション3〜4の患者さんが適応となりますが、自費診療での検査であるため費用は約41万円となつ

ています。検査の結果判明したがん遺伝子の中には、遺伝性のがんと関連する生殖細胞系列変異と呼ばれる遺伝子が含まれることがあり、ご本人と血縁の方に専門的なカウンセリングを行う必要があります。当院では認定遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリングを受けることができます。当院ではがんゲノム医療の発展に貢献し、一日も早くそれぞれの患者さんに最適な治療をお届けできるよう尽力してゆくと所存です。

標準治療不応の切除不能・再発がん、希少がん、原発不明がんに対する個別化医療が始まりました。



腫瘍内科 医長 山口 大 介

かつら そらまめ教室③

腎臓内科部長 兼 血液浄化センター長 宮田 仁美



あけましておめでとうございませう。かつらそらまめ教室を本年も引き続きよろしくお願いたします。前号で予告いたしましたように、今季号では お薬のお話をさせていただきます。そらまめ教室では溝手薬剤師がお話ししました。皆さんが服用したお薬は、主に肝臓と腎臓の働きで排泄されます。したがって、慢性腎臓病で腎機能が悪くなるとお薬の排泄がうまくいかず、体に残るお薬の量が効果を発揮する量を超えて過剰な状態となり、副作用や中毒状態の原因になることがあります。(図1)腎機能検査で、最近では「eGFR(推定糸球体濾過量)」という数値が「血清クレアチニン」とともに示されるようになりました。血清クレ

図1 くすりの排泄

肝臓で代謝されて便中へ排泄 腎臓で処理されて尿中へ排泄

多くの薬は肝臓か腎臓から出ていきます

図2 腎臓の働きが悪くなると…

くすりが体の中から排出されず、たまっていく可能性があります!!

血液中のくすりの濃度

量を多く飲みすぎた場合 濃度を下げた場合

腎機能に合わせて、くすりの量を調節する必要があります!

致死量 中毒量 過剰量 有効量 無効量

くすりを飲んだ時 時間

図3 おくすり手帳を持っていますか?

おくすり手帳のメリット

- 複数の医療機関や診療科にかかっても、おくすりの重複を避ける
- 「飲み合わせの悪い薬」どうしが処方されてしまうことを避ける
- アレルギー、副作用があった薬を記録しておくことにより、その後同じ薬が処方されることを避ける
- 入院時や旅行先などでも、主治医に薬の情報を的確に伝えることができる

アチニンは代表的な腎機能の指標になります。検査成績を見ても、症状がないため自分の数値がどれくらい悪いのかがはっきりせず、放置される傾向があります。そこで、2007年から新たに日本人用に出されたeGFRという数値をお示しして、「eGFRが60未満は危険信号」ということをわかっていただくための注意喚起を行うようになりました。この数値によって個人の腎機能を予測します。まずは、ご自身の腎機能がどれくらいかということ把握してください。そして、もし悪くなってきていたら、早めにかかりつけ医の先生に相談してください。かかりつけ医の先生方は、専門医への紹介基準をご存じです。その際、服用しているお薬につい

ても相談してみてください。腎機能に影響を与えるお薬があるからです。(図2)腎機能に影響を与える薬の例として、①非ステロイド性鎮痛剤があります。年齢を重ねると関節や筋肉が痛くなったりして、容易に痛み止めを内服される傾向があります。最近では市販薬も簡単に入手できますので注意が必要です。また、②高血圧薬の中にアンギオテンシン転換酵素阻害剤(ACEI)やアンギオテンシン受容体ブロッカー(ARB)があります。ACEIやARBは糸球体という血液を濾過する装置への血液の流れを減らしながら腎臓の保護する機能がありますが、腎機能が悪くなっている方にとっては急性腎不全の原因になる場合があります。さらに、③体のむくみや心不全で処方されること多い利尿剤です。これらの非ステロイド性鎮痛剤、ACEIまたはARB、利尿剤の3剤の組み合わせは「triple whammy(三段攻撃)」と言われており、薬剤による腎障害の要因となることが知られています。腎臓は、無言の臓器と以前お話ししたことがあります。薬剤の作用で腎機能が急速に悪化しても悲鳴をあげることができません。様々なお薬が巷に溢れています。是非かかりつけ医の先生に相談して内服するようにしていただければと思います。(図3)

